

事業計画書

2021 年度

自 2020 年 7 月 1 日

至 2021 年 6 月 30 日

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

活動の概要

2020年までの将来像「長期ビジョン2020」を引き継ぎ、2025年までの中期計画を昨年度策定した。今後5年間は「多様性と包摂性を尊重し、特にジェンダー平等と女性と女子のエンパワーメントにフォーカスした開発支援活動に注力」し、「持続可能な開発目標（SDGs）の達成に寄与」する事業にフォーカスしていくこととなる。

昨年度まで推進してきた財務基盤の安定化路線を継承しながら、今年度も将来を見据えた投資を増やし、継続して認知度の向上を図る。企業とのパートナーシップによる支援事業拡大や、ケア・インターナショナル内でのグローバル・アライアンスを有効活用し、支援者・受益者双方にとってのブランド力の向上や、ブランディングに沿った事業形成を行っていく。

海外事業については、今年度、新たに東ティモールにおけるエルメラ県アッサベ郡農業用水改善事業や、タイにおける理数系（STEM）¹教育を通じたリーダーシップ育成事業（第2期）を、先行事業のコンセプトを継承する形で実施する。よって今年度は新型コロナウイルス感染症緊急支援事業を含む以下4つの事業を実施することとなる。

| 区分 | 新旧 | 国 | 事業名 | 支援元 |
|-----|----|--------|----------------------------------|-----------|
| 開発① | 継続 | 東ティモール | 学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業 | 企業、個人等 |
| 開発② | 新規 | タイ | 理数系（STEM*）教育を通じたリーダーシップ育成事業（第2期） | 日産自動車等 |
| 開発③ | 新規 | 東ティモール | エルメラ県アッサベ郡農業用水改善事業 | 外務省、支援組織等 |
| 緊急① | 新規 | 全世界 | 新型コロナウイルス感染症緊急支援事業 | 支援組織、個人等 |

*STEM（ステム）とは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の頭文字をとった言葉。

事業部署 【公益目的事業1】

| |
|---|
| CAREのジェンダー枠組みに則った事業の形成と実施および評価に基づく事業の質の向上 |
| 活動計画 |
| 1. 事業運営管理の重点課題 |
| A) 事業実施を通じたジェンダー平等の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的資金規模の大きな事業に関しては、事業開始時にジェンダー分析 (Gender & Power Analysis (GPA)) を行い、ジェンダー平等の視点を活動に反映する。 |
| B) 先行事業からの学びと教訓 <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的資金規模の大きな事業に関しては、先行事業(または類似事業)における事業終了時評価での学びと教訓を可能な範囲で反映する。併せて、簡易評価リストを活用して事前評価を行い、事業の質の向上を図る。 |

| |
|--|
| 事業運営管理経験の蓄積 |
| 活動計画 |
| 1. 事業規模と質の確保 |
| C) 政府系助成金の継続的獲得による事業規模の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東ティモールで事業を継続する。 ・ 当該国現地事務所に日本人駐在員を継続的に派遣する。 |
| D) 事業申請書および事業報告書の精度の維持と向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度毎の申請書および報告書の精度の維持に努める。 |
| 2. 事業地の戦略的選択 |
| E) 戦略的集中と選択で、数カ国での事業支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東ティモールに継続的に関与する。 ・ 来年度以降の新規中核事業の開始に向け、連携パートナーとなる現地事務所との調整を継続する。 |

| |
|---|
| コミュニケーションの強化 |
| 活動計画 |
| 1. ドナーリレーション |
| F) 政府系ドナーとのより良い関係性の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業申請・採択の継続的な実績を残す。 |
| 2. 内部関係者との連携 |
| G) 緊急支援事業の取り組み強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外においてはケア・インターナショナル、国内においては各地域支援組織と連携し、より積極的に緊急支援に関与する。 |

2. マーケティング部署 【公益目的事業2】

| |
|---|
| <p>広報・ブランディング強化および支援者獲得を通じた民間資金拡大</p> |
| <p>活動計画</p> |
| <p>1. 広報・ブランディング強化</p> <ul style="list-style-type: none"> A) 適切なポジショニング確立とブランディング再構築・強化 B) 明確なターゲット設定に基づく広報メディアの多様化 C) 広報効果の評価分析強化 |
| <p>2. 個人支援者の維持・拡大</p> <p>【新規支援者獲得施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> D) 初めての「国際協力の機会」と「GARE との接点」の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩く国際協力「Walk in Her Shoes」への参加促進 ・ 「あつめて国際協力」への参加促進 ・ 東京マラソン 2021 チャリティを通じた寄付獲得 E) 「都度寄付者」の新規獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・ 寄付ページの改善および戦略的な広告運用によるオンライン募金の強化 ・ 外部ポータルサイトとクラウドファンディングを活用した新規寄付者の獲得 ・ 「新型コロナウイルス感染症緊急支援募金」の継続 F) 「継続寄付者（マンスリー・ギビング・プログラム支援者=MGP）」の新規獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・ F2F（Face to Face=街頭や駅、ショッピングモール等での対面でのマンスリー寄付勧誘）を通じた新規支援者獲得 ・ オンライン経由での新規支援者獲得 ・ リーフレットや寄付申込書等を通じた新規支援者獲得 <p>【既存支援者の継続・アップグレード施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> G) 支援者の維持・拡大に向けた基盤整備と戦略立案 <ul style="list-style-type: none"> ・ セールスフォース整備と利活用強化 ・ 既存支援者の調査・分析 H) 「都度寄付者」の支援機会の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ ダイレクトメールの戦略的展開 ・ メールマガジンやメールでのマーケティング強化を通じたオンライン寄付拡大 ・ 「新型コロナウイルス感染症緊急支援募金」の継続 I) 「継続支援者」へのステップアップ・コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 都度寄付者から MGP 支援者への移行促進 ・ MGP 退会者への支援復活の依頼 J) 「継続寄付者」の参加・支援機会の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員維持と MGP 支援者への移行促進 ・ 既存 MGP 支援者の支援継続と増額および退会防止 |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ CARE スマイルサポーターと、学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業支援者の維持 <p>K) 「大口支援者」の維持・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大口支援者のアップグレードに向けた戦略的コミュニケーションの実践 ・ 遺贈に関する広報強化 |
| <p>3. 企業連携の維持・拡大</p> <p>L) 企業連携に関する広報・ブランディング強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ、広報資料、法人営業資料、ネットワーキング、講師受託等を通じた戦略的広報の実践による、企業からの相談案件数の拡大 <p>M) 資金提供（一般寄付）による支援拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人会員の維持・拡大 ・ 大口支援法人に対する戦略的コミュニケーションの実践 ・ 歩く国際協力「Walk in Her Shoes」における多様な法人連携強化 <p>N) 資金提供（特定寄付）による支援拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日産自動車との連携および活動報告・広報の強化 ・ 企業からの相談への対応強化および新規海外事業支援法人の開拓 ・ 助成金の獲得（社員寄付制度やマッチング寄付等を含む） ・ 「学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業」支援法人の維持 ・ 「新型コロナウイルス感染症緊急支援募金」の継続 <p>O) 物資/サービス提供による支援拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩く国際協力「Walk in Her Shoes」における後援/協力の獲得 ・ 個人支援者施策への社員参加およびプロボノ促進 |
| <p>4. 支援組織の維持・拡大</p> <p>P) 特定事業を通じた支援強化と啓発促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「エルメラ県アッサベ郡農業用水改善事業」と「新型コロナウイルス感染症緊急支援事業」に関する活動報告 ・ 「新型コロナウイルス感染症緊急支援募金」の継続 <p>Q) 支援組織間のコミュニケーションと連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表者会議の企画・開催 <p>R) 地方における認知度向上に向けた相互連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援組織およびその活動の広報強化 ・ マーケティング施策への協力促進 <p>S) 支援組織による会費収入拡大</p> |

3. 管理部署 【法人】

| |
|---|
| 組織に係わる活動 |
| 活動計画 |
| 1. 役員・支援組織・個人支援者等への情報共有の工夫 A) 団体使命と存在理由を確認し、差別化を推進する。 B) 組織として事業説明や活動報告の強化と、双方向でのコミュニケーションにより発展性を確保する。 |
| 2. ケア・インターナショナルとの協力強化 C) ケア・インターナショナルとの協力体制を強化し、ブランディング力の向上や事業形成への協力体制を確立する。 |
| 3. 組織体制の見直し D) 事業規模に見合う適正な運営体制を維持する。 |
| 4. 財務管理 E) 収益性・効率性の高い組織運営を目指し、財政の安定化を図る。 |
| 5. 職場環境の改善および組織基盤強化 F) テレワーク等柔軟な働き方に対応するために、ICT（情報通信技術）環境を整える。 G) 中期目標として掲げた「ジェンダー平等や女性と女子のエンパワーメント」に携わる団体として職員の専門性を高めるために、勉強会の開催やジェンダー研修への参加を促進する。 |

事業詳細

| 区分 | 開発① | 国 | 東ティモール |
|------|---|---|--------|
| 事業名 | 学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業 | | |
| 対象地域 | 東ティモール全 13 県 | | |
| 対象者 | 約 80,000 世帯 約 140,000 名の未就学児および小学 1、2 年生 約 12,000 名の小学校教師 | | |
| 予算規模 | 467 千円（総事業規模：年間約 1.5 億円 *他ドナー資金を含む） | | |
| 実施期間 | 2019 年 7 月～2022 年 6 月（3 年間） | | |
| 主支援元 | 企業、個人等 | | |
| 事業目標 | 子どもの発達促進と教育状況の改善および世帯全体の生活生計能力の向上を図り自立的な地域社会を目指す。 | | |
| 活動計画 | <p>3 ヶ年事業の折り返しとなる今年度には、振り返りを行うとともに、以下の活動を継続する。</p> <p>(1) 学習教材「ラファエック」の作成・配布</p> <p>農村地域を対象に日々の生活に役立つ情報を掲載した視覚に訴えるわかりやすい学習教材「ラファエック」を年 3 回、大人と小学校 4 年生までの子どもたちに向けて配布している。ラファエックは 4 種類にわたり、年齢や属性に応じた多様な情報を提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 幼児から小学生 1～2 年生用 (LAFAEK Kiik) と小学 3～4 年生用 (LAFAEK Prima) : 物語や写真、ゲーム等を通して基本的な読み書き・計算、保健と衛生について学べる内容。 ● 小学校の教員用 (LAFAEK Ba Manorin) : 教師の指導技術の向上をサポートする内容。 ● 成人用 (LAFAEK Ba Komunidade) : 農村部の読み書きに不安のある成人向けに、健康維持、農業生産、育児、小規模融資等の情報を提供。 <p>(2) 対話ワークショップ</p> <p>対話ワークショップでは、地域住民に、ラファエックで取り上げた内容の実践方法について伝授するとともに、生活上の課題について協議する場となっている。また、対話ワークショップでは、地域住民がラファエックの内容について意見を述べるとともに、事業スタッフは必要に応じて不明点等について、地域住民に説明する場ともなっている。このように、ラファエックの内容をより深く理解してもらうために、自治体ごとの対話ワークショップを継続する。</p> <p>(3) スポンサー制とオンラインサービスの拡充</p> <p>事業費の削減と、ラファエックの発行の継続性を高める試みとして、営利、非営利の団体が宣伝や記事を雑誌に掲載するために、教材の一部ページを買い取るスポンサー制を進める。また、オンラインサービスを活用し、主に十代の青少年への啓発を強化する。</p> | | |

| 区分 | 開発② | 国 | タイ |
|------|--|---|----|
| 事業名 | 理数系（STEM）教育を通じたリーダーシップ育成事業（第2期） | | |
| 対象地域 | タイ王国 アユタヤ県、ラヨン県およびサムットプラカーン県 | | |
| 対象者 | 中高生 1,600 人（Grade 7～12）及び教師 120 人 | | |
| 予算規模 | 2,921 千円（年間事業規模 10,000 千円/総事業規模 30,000 千円） | | |
| 実施期間 | 2020 年 4 月～2023 年 3 月（3 年間） | | |
| 主支援元 | 日産自動車等 | | |
| 事業目標 | 男女の区別なく青少年のリーダーシップ、職業的スキルや社会で生きていく力を高めることで、青少年の将来の学業及び職業機会を拓ける。 | | |
| 活動計画 | <p>(1) 事業の背景</p> <p>タイでは、第 12 回国家経済社会開発計画(2017 年～2021 年)の下、タイ東部経済回廊開発が進められており、インフラ開発をはじめ、電気自動車、プラグインハイブリット車、医療、航空、ロボット等の先端技術産業の業種への投資促進を進めている。同開発計画においては産業人材の育成も課題として位置付けられている。産業人材の育成のため、タイ教育省管轄の職業教育局は、後期中等教育(Grade 10～12 に相当)における職業教育課程の学生数を増やし、普通教育課程の学生と職業教育課程の学生の割合を同率(50%・50%)にすることを目指している。同方針により、中等学校、高等学校では正規授業に加え職業活動の推進を教育省から強く要請されるに至っている。しかしながら、多くの学校では、職業活動に割り当てる十分な予算や、職業活動に関する知識や技術を有する教師も不足していることから、同方針を実行できる学校は少ない。先行事業の「青少年リーダーシップ育成事業 第 1 期」(以下「第 1 期事業」)では、学校側のニーズに合わせるべく、3 年間にわたり計 10 校で、職業活動を生徒主体で行えるように、生徒対象に様々なワークショップ・研修(リーダーシップ、ジェンダー平等教育、小規模ビジネス起業、職業訓練、STEM(理数系)教育等)を実施し、平行して、これら課外活動を指導できるように教師対象にオリエンテーションを実施してきた。第 1 期事業は、職業活動の良いモデルとして評価され、とりわけ、単なる職業訓練としての技術指導に留まらず、生徒が将来、社会人として職業人生を歩むために必要なリーダーシップやライフスキルといった側面に力を入れてきたことが高く評価された。高まる学校側のニーズに継続して合わせるべく、更に 3 年間のスケールアップ事業として第 2 期を開始する運びとなった。</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>第 2 期では第 1 期で実施した活動を他の学校にも展開するとともに、1 期での教訓を基に以下を重点課題とした活動を実施する。</p> <p>① 教師の能力向上：</p> <p>第 1 期事業では、教師の異動による活動の停滞が課題として挙がり継続性に疑問符が付いた。事業終了後も生徒による職業活動が対象学校で継続されるには、教師の更なる理解の促進と、指導を受けた教師から他の</p> | | |

| | |
|--|---|
| | <p>教師への知識と技術の移転が必須となる。よって、第2期では新たな試みとして以下の活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リーダーシップ、STEM教育、ジェンダー教育に関する養成者訓練(TOT: Training of Trainers)を実施。 ● TOTマニュアルを開発。 ● TOTを受けた教師から他の教師に学んだ知識と技術を移転。 ● 学校を超えた教員間のネットワーク構築の一環として、第1期の支援学校と第2期の新規支援学校との相互訪問を実施。 <p>② ジェンダー平等の促進： ジェンダー平等に特化した研修を数回実施するだけでは、ジェンダー平等に向け意識や行動を変容することは難しい。よって第2期では、日々の活動の場でのプロジェクトスタッフによる働きかけを通して、無意識に刷り込まれた男女の役割や違いについて、生徒や教師に気づきを促せるように、以下の活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトスタッフを対象としたジェンダーTOT研修を実施。 ● 各対象学校で生徒主催のジェンダークラブを創設。 <p>③ STEMの視点の強化： STEMの視点を職業活動に取り入れることは、将来の産業人材の育成には重要となる。しかしながら、STEMに関する専門的な知見を有するスタッフがプロジェクトチームにはいないことから、第1期での取り組みは不十分であった。第2期では、STEMに関する外部の専門家からの知見を積極的に取り入れるべく以下の活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外部専門家を招いたワーキンググループでの協議と事例研究を基に、職業活動に最適なSTEMカリキュラムを決定。 ● すでにSTEM教育を効果的に取り入れている学校や団体への成功事例研究訪問を実施。 <p>④ 日産自動車タイランド(以下「日産タイ」)職員の積極的な巻き込み： 第2期では日産タイが有する専門性がより活かされた事業参加を進め、現地での連携を深める。具体的には、以下の活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日産タイとの間で四半期定例会合を持ち、次の四半期で計画されている各活動と日産タイ職員の専門性とのマッチングを行い、講師派遣計画を作成。 ● 様々な研修やワークショップに日産タイ職員を外部講師として派遣。 <p>⑤ 生徒の能力向上： 第1期に引き続き、第2期でも生徒の能力向上に関する以下の活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新規支援の8校の生徒を対象にリーダーシップキャンプとSTEMキャンプを実施。 ● 第1期の支援校の生徒を対象としたリーダーシップ&STEM振り返りキャンプを実施。 ● 新規支援の8校で職業グループを形成しグループ活動を実施。 ● ジェンダークラブを創設。 ● 職業訓練、基礎的なビジネス訓練を実施。 |
|--|---|

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 第1期の支援校と第2期の新規支援校の生徒との相互訪問を実施。 ● 成果発表会を実施。 |
|--|---|

| 区分 | 開発③ | 国 | 東ティモール |
|------|--|---|--------|
| 事業名 | エルメラ県アッサベ郡農業用水改善事業 | | |
| 対象地域 | 東ティモール、エルメラ県アッサベ郡の4村内11集落 | | |
| 対象者 | 12の農民グループ（約220名）と11集落内約2,330名 | | |
| 予算規模 | 51,545千円（総事業規模：約144,000千円） | | |
| 実施期間 | 2020年3月～2023年4月（3年3ヶ月間） | | |
| 主支援元 | 外務省、支援組織等 | | |
| 事業目標 | 乾季の水不足を農業用水設備の設置によって解消し、安定的な農作物の収穫を目指す。 | | |
| 活動計画 | <p>(1) 事業の背景</p> <p>本事業の対象地域のエルメラ県アッサベ郡は、県の中心から離れ公共サービスへのアクセスにも困難が伴う山間地であり、住民の大多数は零細農民である。同地の農業生産性は低く、その生業状況は脆弱である。脆弱な生業状況の背景には、気候変動に伴う天候不順等、様々な要因があるが、乾季の水不足も農業活動を妨げる大きな要因となっている。雨季の天水に頼った穀物の生産だけでなく、生業手段を多様化し生業状況を改善するためには、農業用水設備の整備を進め乾季の水不足を解決することが喫緊の課題である。特に、乾季が主な栽培時期に当たる野菜栽培は、農業用水設備によって、その栽培環境が大きく改善することが期待される。</p> <p>更に、農業用水設備は女性農民の労働負担の軽減につながることを期待される。多大な労力を必要とする水汲みと農作物への水やりは女性農民が主に担っているが、農業用水設備を導入することで、水汲みおよび水やりにかかる労働から女性農民を解放することが可能となる。農業においても家庭においても多くの労働を担っている農村地域の女性にとり全体の労働負担が軽減されるとともに、水汲み以外の農作業に従事できる時間が増えることが推察され、長期的には女性の農業生産性向上に寄与できると考えられる。</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>① 農業用水設備（水源保全、貯水タンクおよび水路と点滴灌漑）の設置：先行事業で形成した30の農民グループの中から、水不足の解消によって農業活動の増進が期待できる12の農民グループ（約220名）を選定し、同グループの農地で農業活動に不可欠な水が得られるように農業用水設備を整備する。</p> <p>具体的には、水源を保全し、その水源から農地に水を引き、点滴灌漑設備を設置するまでの一連の造成工程を住民参加型で進め、農業活動、特に野菜の栽培環境の改善を図る。また、水源から取水できる水量が十分な時期は、周辺住民にも貯水タンクを開放し生活用水として利用できる</p> | | |

環境にする。

② 農業用水設備の維持管理：

整備後は、設備が長期にわたり適切に維持管理できるように、農民グループを含むコミュニティ関係者の能力強化を目指す。

具体的には、設備維持管理委員会を設置し、同委員会メンバーを対象に実施する維持管理研修や定例会合を通して、メンバーは修繕保守に必要なとされる知識や技術を身に付け、修繕費の集金管理や定例会合での課題や意見集約の仕方等を実地で学んでいく。事業期間を通して、重要なトピックごとに振り返り研修を実施し知識と技術の定着を図るとともに、自主的に行われる定例会合の場に CARE の職員が立ち合い、委員会メンバーがそれぞれに役割を果たしているか等を見ていく。これら振り返り研修と定例会合等の場を利用したフォローアップによって、知識、技術、そして管理の3つの力を身に付けた維持管理委員会は、事業終了後も、それら身に付けた力を活かして、主体的に設備の維持管理に取り組むことが期待される。

③ ジェンダー平等に向けた取り組み：

活動を通して、事業関係者のジェンダー平等にかかる意識と行動の変容を促進するため、メンバーの50%を女性とするクォータ制度（割り当て制度）を採り入れ、女性のリーダーシップを醸成する。また、コミュニティに内在する男女の役割分担や力関係を見直す機会を定例会合の場で設け、ジェンダー平等に関する様々なトピックを取り上げながら、農民グループとコミュニティメンバーのジェンダー平等に向けた意識と行動の変容を図る。

なお、1年次では12の農民グループのうち5グループを対象に主に以下の活動を実施する。

- 農業用水設置場所に関する住民参加型ワークショップの開催。
- 農業土木専門家による設備の詳細設計。
- 農民グループを主体とした住民参加側による設備の造成。
- 農民グループを対象とした乾季の取水および土壌管理に関する研修の実施。
- 対象農民グループ、コミュニティ側代表との合同の設備維持管理委員会（FMC：Facility Management Committees）の発足。
- FMC を対象とした維持管理研修と定例会合の実施。
 - ・ 補修修繕カリキュラムの開発
 - ・ 保守修繕集中研修
 - ・ 定例会合の開催と FMC の女性メンバー対象のパブリックスピーキング・リーダーシップ研修
 - ・ FMC の規定の策定・修繕費の集金と管理に関する研修
- 農民グループとコミュニティメンバー対象のジェンダー平等に関する啓発活動
 - ・ 男性の巻き込み（男性対象のセッション）
 - ・ 女性対象のセッション
 - ・ 性差に基づく暴力（GBV）に関するセッション

| | | | |
|------|--|-----|--|
| 区分 | 緊急① | 全世界 | |
| 事業名 | 新型コロナウイルス感染症緊急支援事業 | | |
| 対象地域 | 全世界 | | |
| 対象者 | 脆弱な立場におかれ感染リスクの高い以下の人々。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者 ・ 妊産婦と新生児 ・ 基礎疾患がある人々 ・ 介護者や医療の最前線で働く人々(その多くを女性が占める) ・ 障がい者 ・ LGBTQ ・ 移民や外国人労働者 ・ 国内避難民や難民 | | |
| 予算規模 | 7,513 千円 (総事業費: 1 億ドル *2020 年 12 月までのターゲット額) | | |
| 実施期間 | 2020 年 7 月～2021 年 6 月 (1 年間) | | |
| 主支援元 | 支援組織、個人等 | | |
| 事業目標 | 社会的に最も脆弱なグループや人々を対象に、短期的には緊急の感染予防活動を展開することで救命につなげ、長期的には、同様の感染症の再出現とまん延を予防するため、コミュニティ、世帯、個人のレジリエンス力を構築する。 | | |
| 活動計画 | <p>(1) 事業の背景</p> <p>全世界での感染拡大が懸念される新型コロナウイルス (COVID-19) は、途上国や紛争地域といった、もともとの公衆衛生状態も劣悪で医療システムが脆弱な国々にも、確実に拡がりつつある。</p> <p>TrakCorona (https://www.trackcorona.live/)によると、2020 年 5 月 7 日時点で 184 ヶ国 3,836,713 人の感染が報告されており、死者数も 265,308 人に及んでいる。</p> <p>このような非常事態を受け、ケア・インターナショナルは 3 月 19 日、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大とそれに伴う社会的・経済的危機に対応するために、「緊急事態宣言」を表明した。これまでのエボラ出血熱や重症急性呼吸器症候群 (SARS)、コレラなどの感染症への対応経験を活かし、グローバルな連携と連帯のもと、新型コロナウイルス感染症への対応を優先しケア・インターナショナルとして一致団結して取り組む。</p> <p>(2) 活動内容</p> <p>救命に繋げるために主に以下の活動を感染の終息まで実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公衆衛生啓発： <ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い励行の集中的な啓発活動を、既存の保健、栄養、教育事業等に組み込む形で実施。確実な感染予防につなげるため、石けんや洗剤の配布と同時に、正しい手洗いや洗濯方法を実演。 ・ COVID-19 やその予防方法等に関する正確な情報を発信。 | | |

| | |
|--|--|
| | <p>・コミュニティヘルスワーカーやコミュニティリーダーに対しては、感染者の隔離、ソーシャル・ディスタンス(対人距離の確保)対策、そして心のケアについて指導。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全な水の供給： <ul style="list-style-type: none"> ・水不足が顕著な地域において、安全な飲料水を確保し、個人と世帯を清潔に保つための衛生用品を供給。または現金や商品引換券を配布。 ● 食糧配布： <ul style="list-style-type: none"> ・マーケットが閉鎖したりサプライチェーンの機能が滞っている地域に安全な食糧と生活必需品を配布。 <p>加えて、同感染症が男女に及ぼすインパクトの差に留意していく。まだ検証可能な十分なデータはないが、男性が僅かながら女性よりCOVID-19 への罹患率が高いことが伺える。しかし、これは、女性や女子がより安全であることを示唆してはいない。全世界的に家庭やコミュニティで病人や高齢者、そして子どもの世話を含む無償のケアを担う者の76.2%が女性であることが報告されている。医療システムが患者受け入れの能力を超えると、感染者のケアを女性が家庭で担うことになり、すでに家庭内で多くの労働を担っている女性の負担は著しく増大する。また、医療施設においては介護者や看護者の約7割を女性が占めており、防護措置も不十分な中、医療の最前線に立つ女性の感染リスクが懸念されている。更に、感染者の隔離や経済的な苦境に置かれた世帯ではストレスが著しく高まり、結果として家庭内暴力(DV)や性的搾取が増加する傾向があり、すでにこの兆候は確認されている。これら女性へのインパクトに対応すべく、主に以下の対応についても同時に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療の最前線で働く女性へのサポート <ul style="list-style-type: none"> ・介護を担う女性に柔軟な働き方を促進。 ・女性の身心に配慮した物品を提供(生理用品等の衛生用品)。 ● 女性を対象とした公衆衛生に関するメッセージの発信 ● 女性に必要な不可欠な保健サービスの提供(性と生殖に関する保健サービス等) ● 性差に基づく暴力(GBV)の予防と対応に関するサービスの提供 |
|--|--|

以上